田鶴浜物語

わたしたちの住んでいる田鶴浜地域は，山あり，川あり，海ありそして清らかな水が豊かで，大変住みやすい所と言われています。今から約７２００年程前，この地にやってきて自然とともに生活していた，わたしたちの祖先ともいえる人々がいました。

縄文の人々（三引遺跡　約７２００年前）

この頃，地球規模で温暖化が進み，大陸の氷河が溶けて海面が上昇（**縄文の海進**）し，三引の平地は穏やかな入り江となっていました。１９９５年（平成７年），「能越道」建設のため埋蔵文化財の調査が行なわれた際，４ヶ所の貝塚（当時の人々が食料とした物とか，使用した品物・道具などが捨てられた場所・層）が発見されました。その中にあったものは次のような物です。

・・・・約１０万点

・山のめぐみ（クリ　ドングリ　山芋　等）
・海のめぐみ（クロダイ　マダイ　スズキ　マグロ　サバ
　　ハイ貝　サルボウ貝　他　）
・動物の骨　（人骨　シカ　イノシシ　イヌ　イルカ　クジラ
　　釣り針　モリ　等）くし
・舟の櫂（かい）　・漆塗りのたて櫛（漆を何層にも塗った物）
・土器のかけら　・土偶の上半身　・石のおもり
・身を飾るもの　（ペンダント　イヤリング　等）

「山野の幸に恵まれ，多彩な漁具で漁をし，犬を使った追込み猟も行なわれ，身だしなみとして髪は櫛で整い，おしゃれもしていた・・・・」と想像されます。（何人ほど住んでいた？）
しかし，生活は不安定で自然界にさまざまな精霊を意識し，祈ることで平穏な生活を期待しました。　（「七尾の歴史」より）

※その他の縄文の遺跡　「白浜遺跡」　「大津遺跡」

弥生時代　（ＢＣ３世紀　～　３世紀）

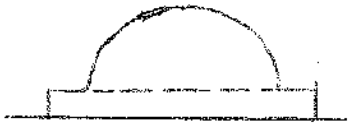
（やよい）

１８８４年（明治１７年）東京都文京区弥生町で，最初に弥生土器が発見されたので，この名をつけました。

弥生土器　‥‥うすくて無文か幾何学（きかがく）模様

色は赤褐色

吉田経塚山や西下に遺体を埋葬したお墓がよく見られます。台状に周囲を整え，その上に土を盛ってあるので「台状墓」といいます。



古墳時代　（３世紀　～　７世紀）

（こふん）

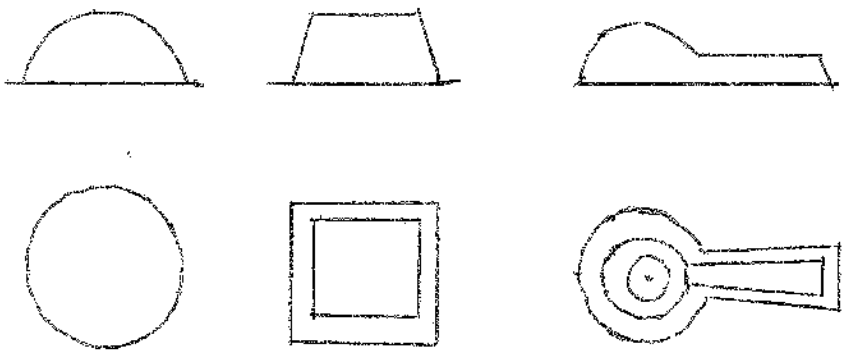
お墓は周囲を溝（みぞ）で区画し，土を高く積み上げて，その中に木棺（もっかん）・石棺（せきかん）（遺体を入れてある）といっしょに生前使っていた品物を入れ（副葬品）埋葬します。その土地の有力者・指導者に限られます。

二宮川流域には，約５００基（き）の古墳があります。

※大津遺跡

横から見た型

上から見た型



円　墳　　方　墳　　前方後円墳

奈良時代　（７世紀　～　８世紀）

７３０年（天平２年），聖武（しょうむ）天皇の時，東宮（皇太子）が眼（め）を悪くされました。能州の赤蔵山の大権現（だいごんげん）－（仏様）－にお祈りすれば治ると言われたので，高僧の愚渕（ぐえん）法師　他３０名が来てお堂を建て祈りました。

すると，東宮の眼病が治ったと言われています。

お池（御手洗池）（みたらしいけ）の水で眼を洗ったのでしょうか？　**御手洗池**　‥‥「全国名水百選」　湧水　深さ４メートル

おおとものやかもち

７４８年（天平２０年）　大伴家持（越中国の国司）が，羽咋・能登・鳳至・珠洲を見回りました。赤蔵山など能登の島山に舟も造れる大きな木々が生えていることだなあと感心しながら

七尾の港→　和倉→　田鶴浜→　中島熊木の港　と舟で渡りました。家持は万葉集（まんようしゅう）の歌人で４７９首の歌を残しています。

☞　「とぶさ立て船木伐るといふ能登の島山
今日見れば木立繁しも幾代神びそ」

☞　「香島より熊来を指して漕ぐ船の
楫取る間なく都し思ほゆ」

室町時代　（１４世紀～

赤蔵山の戦い（**観応の擾乱**）１３５０年～１３５２年

足利尊氏と弟の足利直義との勢力争いが家来達によって，赤蔵山を戦場にして戦われました。

尊氏側　８０００人 ┐
　　├ 赤蔵山の戦い　尊氏側勝利
直義側　１００００人 ┘

神社・お寺・民家は焼かれ，田畑は全滅‥‥‥

戦国時代～江戸時代　（15世紀　～

１５７６年（天正４年）越後国（新潟県）の**上杉兼信**が七尾城を中心に能登国一帯を攻めました。**七尾城**は落城し，能登一帯の主な神社・仏閣は焼かれてしまいました。

１５８０年（天正８年）**長　連龍**（ちょう　つらたつ）は，**織田信長**　から「**鹿島半郡**」５９ケ村を与えられ，領主となりました。　※舟尾は入っていない（舟尾は，加賀藩だったから）

１６０６年（慶長１１年）　**連龍**は「**如庵**」（じょあん）と号し，田鶴浜に館（お旅屋）を構えました。（今の得源寺あたり）浜の村人は，山車（だし・やま）を造って「**如庵**」を盛大に迎えたということです。また，東嶺寺から悦捜寺までの道の辺に家臣を配置したので，その辺りを今でも「殿町」と呼んでいます。

１６３９年**如庵**死去　花渓寺（今の東嶺寺）に葬られ，法号を「東嶺殿」と称しました。

１６３５年（寛永１２年）**長　連頼**（ちょう　つらより）連龍（如庵）の子供　長　**連頼**　は，花渓寺を東嶺寺と改め，尾張（名古屋）から建具職人（指物師）二人を呼び寄せ，寺の改修にあたりました。二人のすばらしい技術に感心した村人は次々と弟子になり，田鶴浜建具のきっかけとなりました。

また，**連頼**は上杉謙信に焼かれた「鹿島半郡」のお寺や神社の再建にも努力しましたが，長家内の内紛がもとで，長家領は加賀藩に没収となってしまい，**連頼**や長家の家臣達は尾山（金沢）に移り（今の金沢の長町），田鶴浜はさびしい村になりました。

☞**伊能忠敬**（いのうただたか）

１８００年～１８１６年の間，日本全土の沿岸を歩いて周り測量，「大日本沿海輿地全図」を作成しました。
能登地方でも測量し，１８０３年（享和３年）７月８～９日
田鶴浜　中村屋五郎右衛門宅で二泊されています。